

共生社会論

2 units (selection) 3rd-year(2nd semester)

Yoshio Kashida · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) 社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる。現代社会は福祉社会である。しかし、「社会リアリティ」の変化にともない、「連帯」の在り方が変わってきている。幅広い市民的連帯がリアリティを失い、「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている。その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが、「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている。また、「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で、「労働倫理」の意義は低下し、クリエイティブな労働者になれない場合は、「立派な消費者」になることが次の目標となってきた。かつて、労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが、いまや、消費者としては障害者も平等に扱われるようになり、最終排除対象者は、意志をもたぬもの、意志を適切に表示できないものになってきている。この流れの先に、共生社会がある。共生社会の光と影を共に見つめていきたい。同時に、社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう。

Outline) 社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論。社会のニーズと個人のニーズ。資本主義を支えるものとしての福祉社会。消費社会への変化の意味。労働のフレキシビリティの増大の意味。近代的労働倫理(勤勉さ、従順さ・..)を守意味の変化。グローバリゼーション。産業の機械化。代替不能性の高い労働と低い労働。これらのことを道具に、現代社会的側面から福祉社会を考える。

Keyword) 福祉社会学, 社会政策, 援助, 共生, セルフヘルプグループ, インタビュー論, 社会福祉と現代社会

Fundamental Lecture) “市民活動論”(1.0)

Notice) 教科書は生協に取り寄せる予定(定価:1700円)。古本でもよいが、必ず入手すること。また、参考書の一部は効果だが読み甲斐がある。出欠確認は毎回行う。とりわけ、初回のオリエンテーションは重要なので、けっせきしないようにせよ。欠席者には理由を等。なお、全学共通教育では、「ボランティア論(木曜5・6限, 前期)が、関連科目である。なお、受講学生人数にもよるが、複数回の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい。大学での学習成果は、書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ。だいたいのことを書いて満足するのではなく、質のものを志して書いてほしい。また、ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる。人数がすくなければ、裁判所見学(以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業)も行う。日本の現状(消費社会化, 低所得労働者のアンダークラス化=ジグムント・バ

ウマン=)を身をもって看取してもらう必要があるからだ。

Goal)

1. 現代社会を学ぶことと、社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する。
2. より具体的には、(1)現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する。
3. (2)現代の困難さに、一定の合理性があることを理解したうえで、アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来(例:労働と切り離された収入)がはらむ問題に気づくことができる。

Schedule)

1. 樫田によるイントロダクション。現代社会論として福祉と共生をとらえる。
2. 消費社会とグローバリゼーション。労働はどう変わってきているのか。
3. ウェルビーイングタウン:社会福祉って何だろう。
4. 社会的ニーズと個人的ニーズの問題。対立?。個人的ニーズの社会的構成?。
5. 障害者福祉のしくみ
6. 高齢者福祉のしくみ
7. 児童福祉のしくみ
8. 虐待について(児童虐待と高齢者虐待)。虐待とエスノセントリズム。
9. 新しい貧困について。ニュープアとアンダークラス(ジグムント・バウマンの主張)
10. 犯罪と疾病と社会福祉。裁判所見学(人数的に可能な場合)。
11. 在宅医療の問題を考えよう
12. セルフヘルプ・グループ論。ヨブ記から考える。
13. 準備レポート草稿の班別検討会。考え抜く態度の錬成(1)
14. 準備レポート講評。総合科学と現代社会。『フーコーの穴』を題材に。
15. 最終レポート草稿の班別検討会。考え抜く態度の錬成(2)
16. 最終レポート講評。総合科学と社会福祉。『<生>の社会学』を題材に。

Evaluation Criteria) 平常点(出席を含む)+レポート(20%, 80%の比率)※準備レポートはコメントを付けて返却し、点数上は最終レポート(第2回目のレポート)のみ加点対象とする見込み。

Re-evaluation) 行わない

Textbook) 岩田正美ほか著 1999『ウェルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

Reference >

- ◇ ジグムント・バウマン著 1998 = 2008 『新しい貧困-労働, 消費主義, ニュープア』 青土社.
- ◇ 藤村正之著 2008 『<生>の社会学』 東京大学出版会
- ◇ 井上俊・長谷 正人編 2010 『文化社会学入門』 ミネルヴァ書房
- ◇ 『福祉社会事典』 弘文堂
- ◇ 齊藤純一編 『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』 ミネルヴァ書房.
- ◇ 三重野卓・平岡公一編 『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』 東信堂
- ◇ 石川准・倉本智明編, 2002, 『障害学の主張』, 明石書店.
- ◇ メイナード著, 榎田・岡田訳 2004 『悪いニュースをどう伝えるか』 勁草書房.
- ◇ 杉野昭博 『障害学 理論形成と射程』 東京大学出版会.
- ◇ 重田園江 『フーコーの穴 統計学と統治の現在』 木鐸社.

Contents > <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343>

Contact >

⇒ Kashida (SVBL3F_1, +81-88-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) **MAIL** (Office Hour: 火曜日_14:00 から 15:00)